

松江市内の小学校・中学校・高校生のための

もんじゅの知恵
～「ふくし教育」実践プログラム集～



社会福祉法人

松江市社会福祉協議会

～はじめに～

「ふくし教育」は全国の市町村社会福祉協議会を中心に、学校や地域・企業などで取り組まれています。

松江市でも「ふくし教育」は、「松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の「地域福祉の担い手の育成」に位置づけられています。

松江市社会福祉協議会(以下「松江市社協」)では、市民の皆様「ふくし」について興味を持っていただき、理解を深めるために「ふくし教育」を実施しています。考えをわかりやすく伝えるために「福祉」をあえて平仮名の「ふくし」と表現し、“**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ”という言い方をしています。

「福祉」=「高齢者」や「障がい者」と決めつけるのではなく、「ふくし」とは、毎日の私たちの暮らしの中にある、みんなのためのものであることを「ふくし教育」を通して伝えていくため、プログラム集を作成しました。

ぜひ松江市社協と一緒に「ふくし教育」を進めて行きましょう。


「もんじゅの知恵」は、仏教用語のことわざ「三人寄れば文殊の知恵」からきています。この冊子では、三人とは、学校(企業)・地域・社協を指します。三者(人)が集まって相談すれば、より良い学びや取り組みが生まれることを期待しています。



「ふくし教育」の実施の流れ

1. 事前相談・申込

- 「ふくし教育」の申込は、実施予定日の**2か月前**までにお願ひします。
- 日程の都合上、実施日を第3希望までご用意ください。
- 「ふくし教育申込書」に記入し、FAXまたはメール (volunteer@shakyou-matsue.jp) で提出をお願ひします。

松江市社協ホームページ内
「ふくし教育」のページはこちら 



2. 打ち合わせ

- 担当の先生等と目的やねらい、実施するプログラムの内容、実施の流れ、会場、必要物品の確認等を行います。
- 必要に応じて、講師も同席します。



3. ふくし教育の実施

- 必要な物品があれば、ボランティアセンターからの貸出も可能です。
- 実施時は、必ず先生等の付き添いをお願ひします。

4. ふりかえり

- 実施後は参加者だけでなく、先生もふりかえりの時間を作りましょう。
- 「ふくし教育実施報告書」の提出をお願ひします。

参加者のふりかえりでは

- ☆どのような気づきや学びがあったか
- ☆疑問に残ったことはあったか
- ☆自分の今後について何を思ったか
- ☆参加していない人に気づきや学びをどのように伝えていくか
- ☆他の人と意見交換ができたか

先生のふりかえりでは

- ☆目的やねらいを達成できたか
- ☆参加者の反応はどうだったか
- ☆参加者と一緒に体験・学習できたか
- ☆何を気づき、学んだか
- ☆今後に向けた課題や目標はあるか
- ☆どのように次につなげていくか



1. 「ふくし」について学びを深めよう



ねらい

「ふくし」の意味や地域の現状を知り、自分たちのしあわせを実現するためにできることを考える。

対象者

小・中・高校生

講師等

福祉関係者・市社協職員 他

プログラム例

◆ 講話（45分程度）

- ・「ふくし」について
- ・松江市や住んでいる地域の現状
- ・身近にある思いやりの仕組みについて
（ノーマライゼーション、バリアフリー、共同募金 など）



2. 自分たちができるボランティア活動

ねらい

ボランティアについて知り、ボランティアに対する意識が高まり、実行力が育つ。活動を通じて、様々な人とつながり、共生のまちづくりにつなげる。

対象者

小・中・高校生

講師等

福祉関係者・市社協職員 他

プログラム例

◆ ボランティア講座（50分程度）

- ①ボランティアとは
- ②ボランティア活動はどんなものがあるか、心得やマナー
- ③ボランティアセンターについて

◆ 福祉施設等でのボランティア活動体験（要相談）

- ①利用者の話し相手
- ②レクリエーション等のサポートなど



3. 自分の住むまちを知ろう ～わがまちよいとこ探し～



ねらい

地域に住む様々な人と交流し、自分たちの住むまちの長所・短所を知り、自分たちにできることを考えることで、地域への関心を高める。

対象者

小・中・高校生

講師等

地域の方・福祉関係者・市社協職員 他

プログラム例

◆ 地域の方からの講話、交流

- ・地域の民生児童委員、福祉推進員、高齢者クラブ、各施設等、地域で活躍している方々からお話を伺う。

◆ 福祉施設の見学や入居者との交流（1時間程度）

- ・地域の福祉施設への見学や、入居者の方々との交流を行う。



4. 高齢者について知ろう ～としをとるってどんなこと？～

ねらい

高齢者の身体の変化や特徴、生活の様子を知ること、相手を敬う気持ちや思いやりのある行動について考える。

対象者

小・中・高校生

講師等

福祉関係者・市社協職員・キャラバンメイト 他

プログラム例

◆ 講話（45分程度）

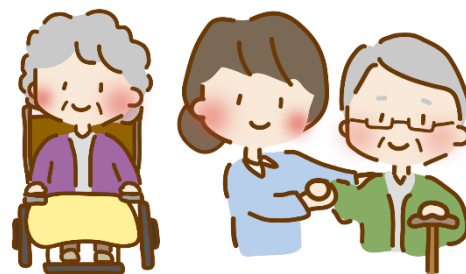
- ・としをとるって？加齢とは
- ・高齢者との接し方、自分たちにできること

◆ 認知症サポーター養成講座（90分程度）

- ・認知症に対する取り組み、認知症の理解、認知症の人への接し方 など

◆ 高齢者疑似体験

- ・おはじきや装具を使って、加齢による身体的・精神的変化を理解する。



5. 障がいを知り、共に生きる ～あいサポーター研修～

ねらい

多様な障がいの特性や困りごと、必要な配慮などを理解し、そして、必要なときにちょっとした手助けができる“やさしくて温かい地域社会づくり”をめざす。

対象者

小（高学年以上）・中・高校生

講師等

あいサポートメッセンジャー

プログラム例

◆ 研修（90分）

- ①あいサポート運動の概要理解
- ②DVD視聴
- ③あいサポーターの役割の理解
- ④簡単な手話
- ⑤あいサポート宣言
- ⑥あいサポートバッジの交付

*研修修了後にバッジもしくはチャームをお渡しします。



6. 視覚障がいについて知ろう

ねらい

視覚障がい者の方の生活や現状、課題、自分らしい生き方などを聞き、自分たちにできることは何かを考える。

対象者

小・中・高校生

講師等

盲導犬ユーザー・福祉関係者・市社協職員 他

プログラム例

◆ 盲導犬ユーザーの方の講話（90分程度）

- ・目の病気、視覚障がい者の生活や盲導犬について知ってもらう
- ・声かけ、手引きの体験
- ・盲導犬とのふれあい

◆ アイマスク体験（45分程度）

- ・いろいろなものをさわってみよう！
例）お金、ボール、果物など
- ・ブラインドウォーク（中学生以上）
廊下や階段などを手引きで歩いてみよう。



7. 車いすユーザーの方と出会い学ぼう

ねらい

車いすユーザーの方の生活を知り、自分たちに何ができるか考えたり、自分たちの住むまちを見直すきっかけづくりとする。

対象者

小（高学年以上）・中・高校生

講師等

車いすユーザー・福祉関係者・市社協職員 他

プログラム例

- ◆ 車いすユーザーの方の講話（45分程度）
 - ・ 車いすを利用するようになった経緯や、生活の様子等について話を聞き、自分たちに何かできるか考える。
- ◆ 体験（45分程度）
 - ・ 地域や学校内のバリアやバリアフリーを探してみよう。
 - ・ 車いすの操作を学ぼう。



8. 介護について知ろう ～仕事の魅力伝えます～

ねらい

高齢者や介護について興味や関心を持ち、将来の進学または職業について考えるきっかけとする。

対象者

中学生

講師等

介護の仕事コンシェルジュ（福祉施設職員）

プログラム例

- ◆ 講話（50分程度）
 - ・ 福祉の現場で働く介護士が、人の尊厳や高齢者の自立した生活を支えることの大切さや、福祉の仕事の社会的意義、仕事の魅力を伝える。
- ◆ 体験（50分程度）
 - ・ 自分と高齢者の身体特徴の違いを理解した上で、立ち上がりや歩行などの体験や、介助方法について学ぶ。



ふくし教育申込書

学校用

依頼日： 年 月 日()

学校名		たんどうしゃ 担当者	
対象者	()年生:()人	クラス数()組	(特別支援学級 名)
TEL		E-mail	
FAX		連絡可能な時間・方法	

目的・ねらい	
授業	総合的な学習 ・ 家庭科 ・ その他()
内容	
事前学習 ・事後学習 (※実施前後に 学習する内容)	

開催場所	
------	--

希望日時	第1希望	年 月 日() 時間: 時 分~ 時 分まで ※合計()コマ、()分授業
	第2希望	年 月 日() 時間: 時 分~ 時 分まで ※合計()コマ、()分授業
	第3希望	年 月 日() 時間: 時 分~ 時 分まで ※合計()コマ、()分授業
	備考	

その他 (要望・注意事項等)	
-------------------	--

※原則として、実施希望日の2ヵ月前までに申込をお願いいたします。

※講師調整・会場準備等の都合上、開始時間についてはご配慮いただきますようお願いいたします。

松江市ボランティアセンター 所長 様

学校名・団体名

代 表 者 名

担 当 者 名

ふくし教育実施報告書

実施日時	令和 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分		
実施場所			
対象者		参加人数	
目的・ねらい			
内容			
目的の達成	ふくし教育の目的やねらいを達成できたと感じましたか。 <input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> あまり達成できなかった <input type="checkbox"/> まったく達成できなかった ⇒どうしてそう感じられましたか。		
児童及び生徒の様子	取り組む姿勢や変化などについてご記入ください。		
改善点	改善したほうがいいと思われた点や、ご提案等をご記入ください。		
その他	ご意見、ご感想など自由にご記入ください。		

右のコードからも回答、報告が可能です。



ぜひ松江市社会福祉協議会にご連絡ください。

社会福祉法人 松江市社会福祉協議会

松江市ボランティアセンター

〒690-0852 島根県松江市千鳥町70番地

TEL : 0852-27-8388

FAX : 0852-24-1020

E-mail : volunteer@shakyou-matsue.jp

松江市社協



令和8年3月 改訂